

水資源

世界的に水資源問題への関心が高まる中、三井物産は、環境方針に水の効率的活用を掲げるとともに、水資源の保全および持続可能な利用の推進に向け、水事業やさまざまな取り組みを進めています。新規事業投資案件では、環境への影響が大きい案件について、専門家による調査を実施するほか、特に水ストレス地域においては、WRI(世界資源研究所)のAqueduct(水リスクマップ)を活用し、新規事業のみならず既存事業も対象として水ストレスのリスク分析・モニタリングを実施、水ストレス軽減を図っています。

カタールの発電・造水(IWPP)プロジェクトを通じ長期にわたって水を供給

活動

当社は、カタールの経済成長に伴う急速な電力・水需要の拡大に対応するため、同国首都ドーハの北80kmに位置するラスラファン工業地区において、ラスラファンC発電・造水(IWPP)プロジェクトに参画しています。カタールでは水の99.9%は海水淡水化設備で生産されていますが、同プロジェクトでは発電時の余熱を利用した淡水化方式を採用し、エネルギー効率の最適化を図っています。また、同プロジェクトは、2011年から25年間、出力273万kWの発電設備、日量29万トンの造水能力を持つ海水淡水化設備を稼働し、電力および水をカタール電力・水公社(KAHRAMAA)に供給するもので、同国の電力供給の約24%、水供給の約14%を賅っています。



ラスラファンC造水プラント

当社の水関連ビジネス

種類	国	処理能力(規模)
上水供給事業	タイ	100万トン/日
下水処理事業	メキシコ	360万トン/日
発電・造水事業	カタール	29万トン/日
銅鉱山向け海水淡水化・揚水事業	チリ	建設中

NGOを通じ安全な飲料水を提供する雨水のリユースシステム構築を支援

活動

フィリピン・ボホール州の離島・中山間地域は、安全な飲料水を容易に入手できない、水ストレスの高い地域です。海岸沿いや離島の井戸は海水混じりで飲み水には適さないため、離島に住む住民は海を渡って飲料水を購入しながら日常生活を送っており、飲料水確保のコストと時間が大きな負担となっています。この地域の住民が簡単に安全な飲み水を獲得できるよう、当社は三井物産環境基金の助成案件の一つとして、特定非営利活動法人イカオ・アコによる、雨水を貯留・浄水する設備を提供する取り組みを支援しています。地域に最適な規模のタンクを住民自身が設計・建設することで、地域での維持管理が可能になり、持続可能な飲料水供給システムが構築されています。



雨水貯留タンク(2019年11月)

シェールガス採掘時の水資源への配慮

活動

当社は、出資先のMitsui E&P USA LLCを通じ、米国でマーセラス・シェールガス開発・生産プロジェクトおよびイーグルフォード・シェールオイル/ガス開発・生産プロジェクトを推進し、水圧破砕による採掘を行っていますが、水圧破砕に使用する水(フラッキング水)の適切な利用(排水の再利用を含む)・管理・廃棄を進めることで水資源への配慮に努めています。